

平成22年度に向けた改善方策
～平成21年度自己評価の結果から～

世田谷区立二子玉川小学校
校長 小宮 豊

平成21年度の関係者アンケート及び自己評価の結果から、特に重点目標について以下のとおり改善案を立てるとともに、この実現に向けて全職員で努力してまいります。

1、学校から地域・保護者への積極的な情報発信

学校ホームページを随時更新としたことで、アクセス数も飛躍的に伸びた。(約36000件)しかし、関係者アンケートの結果からは、学校ホームページを閲覧しているとの回答は、55.9%にとどまっていたことから、まだ十分に情報を伝え切れていない課題が明らかになった。

<改善方策>

- (1) 「全教員が作る学校ホームページ」を一層推進し、今後増加する教職員数を生かしながら全教員で更新するシステムを確立する。そのことによって、情報(内容)の充実を図るとともに、タイムリーな掲載を心掛けるなど、より魅力ある学校ホームページの充実を目指す。
- (2) 学校、学年だより等で学校ホームページの内容の一部を紹介するとともに、「学校ホームページだより(仮題)」を配布するなどして、保護者や地域の方々に学校ホームページへの関心を高めていただく。

2、子どもに一つでも多くの自信をもたせる取り組み

関係者アンケートでは、あいさつの習慣について64.9%(前年度比+6%)の肯定的評価があったが、目標の80%にはとどかなかった。また、今後も子どものよさを見取り、褒める場と機会を生かすなど、子どもに自信をもたせる指導は継続していく必要があると考える。

<改善方策>

- (1) 毎朝の校門での校長のあいさつを継続するとともに、いわゆる期間限定の「あいさつ週間」の取り組みだけにとどまらず、日常的に子ども同士が朝のあいさつを行える活動の工夫をし、PTAや地域の協力を得ながら推進する。
- (2) 毎週各教員から報告される「児童をほめた姿」について、①朝会や授業観察の際に子どもたちに伝え返し、あらためて褒める。また②学校だよりや学校ホームページでも積極的に取り上げ、地域ぐるみで子どものよさを認め、受け止める意識が高まるような情報発信の充実を図る。

3、学校施設の安全性の確保と改善

日常の安全点検を基に推進してきているが、施設設備などの老朽化等の問題が改善されないため、保護者や地域の方々には改善が見えにくく、関係者アンケートでの肯定的評価は75%にとどまっている。

<改善方策>

- (1) 日常の校内安全点検の徹底を継続し、トイレの改修や雨漏り、施設壁面のひび割れ等、緊急を要するものについては、校内予算の範囲で対応していくとともに、教育委員会にも積極的に働きかけていく。
- (2) 新築校舎の安全性、機能性については、今後も引き続き検討を重ね、区担当課と連携し詳細な設計計画を完成させる。

4、教員の指導力向上について

関係者アンケートでは、この取り組みの成果について「わからない」との回答が26.9%もあった。保護者や地域の方々に教員の研修の状況を伝える工夫をするとともに、成果がより見えやすい指標の提示が必要と考える。

<改善方策>

- (1) 学校関係者評価委員に、研究授業等への参観を求め、第三者による評価をしていただく。
- (2) 校内研究をはじめ、教員の研修の様子を学校だよりや学校ホームページ等を活用して、より積極的に情報発信していく。

以上